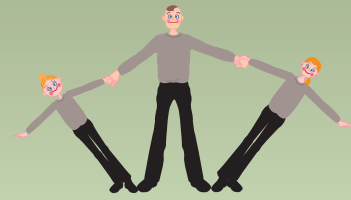


# 運動疫学 ニュースレター



平成 25 年 7 月 10 日発行 No. 1

## 学会化とニュースレターの発刊

運動疫学研究会会長 種田 行男

運動疫学とは、身体活動・運動と健康との関連を研究するための学問領域です。2つの主要課題があり、ひとつは「どのような身体活動・運動を、どれくらい行えば健康を増進できるか?」。もうひとつは「どうしたらより多くの人々が、適切な身体活動・運動を実践できるか?」です。

これまでに、運動疫学研究は身体活動・運動が生活習慣病を予防することや身体的自立能力を改善することなどを認めてきました。厚生労働省はこれらのエビデンスを用いて2006年と2013年に「健康づくりのための身体活動基準」を策定しました。一方、運動行動の変容を促すための運動疫学研究も精力的に行われており、個人のみ

ならず学校や職場などの集団を対象としたもの、さらに都市計画・交通・環境分野などと連携して、地域や社会全体を対象とした取り組みも実施されています。そして、これらのエビデンスは、「健康日本21の第1次および第2次」の策定に活用されました。

最近の身体活動・運動に関する国家政策は、運動疫学研究から得られたエビデンスに基づいて策定することが習慣化されており、運動疫学研究の社会的重要性は益々高まるばかりです。このような状況に迅速かつ適切に対応するために、運動疫学研究会は今年10月に日本運動疫学会へと移行するための準備を進めています。これに伴いまして、会員の皆様のエビデンスの創造



(学会発表と論文投稿)をこれまで以上に手助けすることを目的に、ニュースレターを発刊することになりました。これを通じて、運動疫学研究の推進に役立つ情報を発信して参りますので、どうぞご注目ください。最後に、ニュースレターを創刊して下さった広報委員会のみなさまの熱意と努力に心から感謝いたします。

## 第14回 運動疫学セミナー開催のお知らせ

日程：2013年8月25日(日)、  
26日(月)、27日(火)  
会場：TOKO HOTEL(東興ホテル)  
ほか (<http://toko-hotel.com/>)  
〒141-0031 東京都品川区  
西五反田2-6-8  
☆山手線五反田駅を出て右手に30秒。  
受講料：一般(有職者)40,000円  
学生35,000円  
定員：全コース合わせて約30名  
(定員になり次第、締め切ります。)  
※セミナー受講者は運動疫学研究会の  
会員とします(非会員の方は入会をお  
願います)

セミナー受講料について：  
学生会員であっても専任有職者には学  
生料金が適応されません  
また宿泊は相部屋となります  
申込み方法：  
申込書をダウンロードし、必要事項  
を記入のうえ、電子メールに添付し  
て運動疫学セミナー事務局([jaee.  
seminar@gmail.com](mailto:jae.sem@ gmail.com))に送信ください。  
申込締切日：  
平成25年7月20日(金)正午  
問い合わせ先：  
運動疫学セミナー事務局  
([jaee.sem@ gmail.com](mailto:jae.sem@ gmail.com))

講義内容：セミナーの時間割

1. コース選択：本セミナーに3コースを設けました。以下のコースから1つお選びください。
- ベーシックコース：  
疫学的研究デザインを意識して研究

### CONTENTS

1. 学会への移行とニュースレター発行について …… 1
2. 運動疫学セミナー(8月)のご案内 …… 1
3. セミナー参加者の声 …… 3
4. 学会大会(9月)のご案内 3
5. 関連学会(ACSM)報告 …… 4

計画をつくれるようになる。

○アドバンスコース：

疫学的研究の運営・解析・論文化する力を身につける。(※初めてセミナーに参加される方は原則としてベーシックコースをおすすめします。)

○フリーコース：

疫学的研究を実施する上で身につけた企画・運営・解析・論文化の力を復習する。講義(アドバンス・ベーシック)は自由に選択できます。グループワークはアドバンスコースに参加していただきます。(※原則としてアドバンスコースまでを終了した方とします。)

2. 運動疫学研究に関する合同および個別相談プログラム

(1) 合同相談プログラム(運動疫学研究実習)

アドバンスコースとして2日目の午

後に個人研究に関して講師陣全員と討議できる時間を設けます。これから実施する予定の研究、あるいは現在進行中の研究の現状について発表した後、講師陣全員に対して研究に関する相談や質問が可能です。また、他の受講者や講師陣とご自身の研究に関する討議が可能です。このプログラムへの発表希望者は、研究の指導を担当されている方(指導教授や研究班長)がいる場合、本セミナーにおいてこのような企画があることを伝え、承諾を得た上でご参加ください。

(2) 個別相談プログラム

フリーコース(アドバンスコース参加者は要相談)を選択された方の中で、これから実施する予定の研究、あるいは現在進行中の個人研究に関して講師陣と個別に話し合う時間帯も設けます

(1人:30~60分、参加希望者数によって変更)。このプログラムへの参加希望者につきましても、研究の指導を担当されている方(指導教授や研究班長)がいる場合、本セミナーにおいてこのような企画があることを伝え、承諾を得た上でご参加ください。

講師紹介

- 種田行男(中京大学工学部)
- 井上 茂(東京医科大学)
- 鎌田真光(日本学術振興会特別研究員、国立健康・栄養研究所)
- 北島義典(埼玉県立大学保健医療福祉学部)
- 澤田 亨(国立健康・栄養研究所)
- 内藤義彦(武庫川女子大学生活環境学部)
- 中田由夫(筑波大学医学医療系)
- 中村好一(自治医科大学公衆衛生学)

日付	時刻	ベーシックコース	アドバンスコース
2013年8月25(日)	13:00-13:30	開 校 式	
	13:40-14:40	疫学概論(内藤義彦)	運動疫学概論(種田行男)
	14:50-15:50	研究デザイン論(北島義典)	介入研究の進め方(中田由夫)
	16:00-17:00	基礎統計学(中田由夫)	コホート研究の進め方(澤田 亨)
	18:30-	夕 食 ( ナ イ ト セ ミ ナ ー )	
2013年8月26(月)	7:30-9:00	朝 食	
	9:00-10:00	共通講義① 地域介入研究の進め方(鎌田真光)	
	10:10-11:10	共通講義② 身体活動の重要性(井上 茂)	
	11:20-12:00	共通実習① 身体活動量測定(スズケン)	
	12:00-13:00	昼 食	
	13:00-14:00	共通講義③ 論文の書き方(中村好一)	
	14:10-15:10	介入研究のサンプルサイズ(中田)	運動疫学研究実習
	15:20-16:20	コホート研究のサンプルサイズ(澤田)	
	16:30-17:00	演習ガイダンス(中田、内藤、北島)	
17:00-19:00	夕 食		
19:00-23:30	演習① 研究デザイン(グループワーク)		
2013年8月27(火)	7:30-9:00	朝 食	
	9:00-12:00	演習② 研究デザイン(グループワーク)	
	12:00-13:00	昼 食	
	13:00-15:30	演習③ 研究デザインの発表	
	15:30-16:00	閉 校 式	



## 昨年度セミナー参加者の声

デパート健康保険組合 金子 牧子

私は、産業保健の現場で仕事している保健師ですが、少しでも現場で生かしたいと思い、昨年の運動疫学セミナーのベーシックコースに初めて参加いたしました。

このセミナーのすごいところは、普段は様々なところで活躍している先生方から集中して講義を受けられることやグループごとに研究計画を作成し、プレゼンテーションをするまでを2.5日間の短期間でできることだと思います。ベーシックコースの「疫

学的研究デザインを意識して研究計画をつくれるようになる」までは到達できませんでしたが、研究計画をつくる流れを知ることができました。今後も研究計画がつくれるよう努力していきたいと思います。

セミナーの多くの参加者は研究者、大学教員、大学院生の方々に、初参加の私には実際難しいことやわからないことがたくさんありました。しかし、未熟ながらも研究への意識ができたことやグループワークで一緒だった



方、同室だった方等多くの方と意見を交わしたり様々な話をしたりしたことは、私にとって大変勉強になりました。先生方だけでなく、参加者の方々からも多くを教えていただくことができました。ありがとうございました。

## 第16回運動疫学研究会学術集会のご案内

学術委員会委員長 澤田 亨

第16回目の学術集会は研究会として開催される最後の集会となる予定です。このため学術集会のテーマを「運動疫学研究のさらなる飛躍に向けて」といたしました。そして学会化記念講演として歴代の会長から「研究会から学会への変貌に向けて期待すること」というテーマで講演をいただきます。

また、教育講演ではオーストラリアから帰国したばかりの岡浩一朗先生（早稲田大学）から、今注目されている「座位行動と健康」に関する最新の情報を提供していただく予定です。

さらに本年は「健康づくりのため身体活動基準2013」および「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」が公表された年でもあります。このため「我が国における身体活動奨励と健康」というテーマで身体活動奨励に関する著名な先生方4名によるシンポジウムを開催いたします。そして一般発表につきましても昨年同様3つのタイプの発表形式を設定して多くの会員の皆様の発表をお待ちしております。

1. テーマ：運動疫学研究のさらなる飛躍に向けて
2. 日時：2013年9月20日（金）10:00～18:00
3. 場所：独立行政法人 国立健康・栄養研究所 大会議室  
（住所：〒162-8636 東京都新宿区戸山1-23-1）
4. 交通：大江戸線 若松河田駅（徒歩10分）・東西線 早稲田駅（徒歩10分）  
副都心線 西早稲田駅（徒歩14分）
5. 参加費：会員2,000円・非会員3,000円（当日、受付にて徴収させていただきます）
6. 共同開催：職域身体活動研究会（日本産業衛生学会）
7. 後援：独立行政法人 国立健康・栄養研究所
8. 協賛企業：株式会社スズケン
9. プログラム：詳細はホームページをご確認ください。
10. 一般発表について：下記の3セッションについて募集いたします（受付開始：6月1日から）

(1)一般発表（発表時間：10分以内・質疑時間：5分以内）

(2)研究デザインあるいは研究計画の発表（発表時間：5分以内・質疑時間：5分以内）

(3)2～3枚のスライド・1つの話題（発表時間：5分以内・質疑時間：5分以内）

11. 一般発表の抄録提出〆切：

2013年8月23日（金）

MSワード形式で作成した抄録（A4用紙1枚）を事務局までメールでお送りください。

抄録の書式については、ホームページをご参照ください。

12. その他：健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位としての認定申請を予定しています。

13. 事務局（お問い合わせはメールをご利用ください）

中京大学工学部ヘルスプロモーション研究室（種田研究室）

E-mail：[jaee.info@gmail.com](mailto:jaee.info@gmail.com)

※ プログラム等の詳細は、ホームページをご参照ください。  
[http://jaee.umin.jp/meeting\\_16.html](http://jaee.umin.jp/meeting_16.html)

## 関連学会（米国スポーツ医学会：ACSM）参加報告

独立行政法人 国立健康・栄養研究所 澤田 亨

第60回米国スポーツ医学会（American College of Sports Medicine：ACSM）および第4回 World Congress on Exercise is Medicine が5月28日から6月1日の日程でインディアナポリスで開催されました。私は運動疫学を極めるならACSMへの参加は必須だと考えています。なぜなら世界の運動疫学研究をリードする研究者が集まる学会だからです。来年は5月27日からディズニーワールドやユニバーサルスタジオがある夢の街、オーランドで開催されます。ぜひ来年のオーランドに参加してACSMと夢の町を体験していただきたいと思います。特に若い研究者の皆さまにはできるだけ早いタイミングでACSMに参加して国

際的な運動疫学研究者を目指していただきたいと思っています。

さて、本年の参加報告ですが、例年同様、まず「Exercise is Medicine」国際会議から学会がスタートしました。この会議では例年数多くの運動疫学研究が紹介されます。本年は「肥満と体力（Fatness and Fitness）」に関する研究が紹介されていました。また本会議（ACSM）では、例えば「がんと身体活動」というテーマで両者に関する運動疫学研究の紹介に続いて、これまでの動物実験の研究結果や人を対象に実施された介入研究の結果が紹介されていました。また、ロンドンオリンピック記念として英国の歴史ある医学誌ランセットが身体活動と健康に関して特

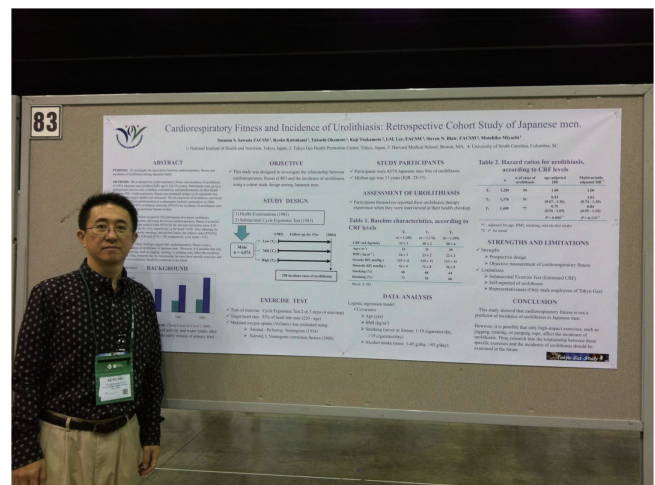
集した時の著者が集まってシンポジウムが開催され、特集記事の理解を深めることができました。もちろん著者の一人として東京医科大学の井上茂先生も参加されていました。

夜も楽しいひと時をすごすことができました。学会の会場の隣には野球場があり、マイナーリーグ（インディアnz）の試合を観戦しました。雰囲気、最高でした！また、歩いて5分くらいの場所にはバスケットボール・アリーナがありNBAのペイサーズがプレーオフを戦っていました。さすがにチケットは入手できませんでしたが、別の日にはWNBAの試合を観戦しました。これもまた雰囲気、最高です！

楽しくて勉強になるACSM。オーランドで今年以上に多くの運動疫学研究会の会員の皆さまとお会いできることを楽しみにしております。



受付会場の様子



発表ポスターの前にて



WNBA（米国女子プロバスケットリーグ）の試合を観戦に行きました（左から井上先生、北畠先生、神野先生）。

発行：運動疫学研究会

編集：運動疫学研究会広報委員会